



廿日市市教委だより

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

令和4年
5月20日
第2号



新年度がスタートして、早くも1ヵ月以上が経ちました。ゴールデンウィークも終わり、少し疲れが出てくる頃かもしれませんので、体調管理には注意してください。さて、市教育委員会では、今年度も学校の魅力あふれる取組や関連情報を掲載した「市教委だより」を発行していきます。今年度は、連載記事に「注目の先生」紹介を復活させ、先生方の教育実践に役立つホットでタイムリーな情報を伝えていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



「育ちと学びをつなぐ」幼保小連携・接続の充実に向けて

廿日市市では、令和3年度より2年間、「育ちと学びをつなぐ」幼保小連携接続の充実事業の指定を受け、福祉部局と連携して組織体制を整え、幼稚園・保育園・こども園・小学校それぞれにおいて幼保小連携・接続の充実に向け取り組んでいただいているところです。

今年度の主な取組は、右に示す5点です。

- ①スタートカリキュラム実施
- ②小学校1年生児童、担任、保護者対象アンケート実施（5月下旬頃）
- ③園・所から送付される指導要録等の効果的な活用
- ④小学校教員等による園・所への複数回訪問
- ⑤年長児保護者向けリーフレット配付

4月には、いくつかの小学校を訪問し、スタートカリキュラムの様子を見学させていただきました。

朝のこここタイム
(廿日市小学校)



この前はできなかったけど、できるようになったよ!

茶々つぼ
茶つぼ〜♪

朝の会「おしえておしえて！」
コーナー(原小学校)



園でやっていた手遊び教えて!

「落ちた落ちた」やりたい!

子ども達が安心して過ごせる環境づくり、自信をもって取り組める活動など、それぞれの学校において工夫しながらスタートカリキュラムを実施していました。(①)今年度の取組③④については、各小学校区において、幼保小で連携しながら取り組み、子ども達の育ちと学びをしっかりとつないでいきましょう!

また、アンケート実施についても御協力をお願いします。

正しく理解しよう「起立性調節障害」①

近年、起立性調節障害という病気が注目され、徐々に広く認知されるようになってきました。起立性調節障害は、主に思春期に好発する自律神経系の不調からくる「身体の病気」です。起立性調節障害をもつ子どもは、循環系の自律神経機能の調節不全により、脳や全身に必要な血液が十分行き渡らず、次のように様々な症状を現します。

① 立ちくらみ、めまいが多い	⑥ 朝なかなか起き上がれない(午前中は調子が悪い)
② 立っていると気持ち悪くなる(ひどくなると倒れる)	⑦ 顔色が青白く赤みがない
③ 入浴時に気持ちが悪くなる	⑧ 食欲不振が続く
④ 嫌なことを見聞きすると気持ちが悪くなる	⑨ 頭痛・腹痛・倦怠感などを感じる
⑤ 少し動くと動悸や息切れがする	⑩ 乗り物に酔いやすい



いつまで寝てるの!

つらいのにわかってくれない

これらの症状が特に起床時に強く現れ、登校が困難になる子どももいます。しかし、朝の不調が不登校の初期症状に似ているため、心理的問題を指摘されたり、「怠け」や「さぼり」などと誤解されたりすることもあり、周囲に理解されず辛い思いをしている子どももいます。しかし、早期に把握し、適切な対応や治療を施すことで、症状の軽減や回復が期待できます。まずは私たち大人が正しく理解することが、困っている子どもや家族を応援する第一歩になります。市教委だよりでは、起立性調節障害について、2回に分けて特集し、啓発に努めてまいります。

キャリア教育の充実に向けて

《キャリア教育とは》

一人一人の**社会的・職業的自立**に向け、必要な基盤となる**能力や態度**を育てることを通して、**キャリア発達**を促す教育。

《キャリア発達とは》

社会の中で**自分の役割**を果たしながら、**自分らしい**生き方を実現していく過程。

★キャリア教育においても意識を！

広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力

自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力

自己を認識する力	自分の人生を選択する力	表現する力
自分は何が好きなのか、自分はどのような人間なのか、など自分自身のことを理解することができる力	自分の将来の夢や目標、自分がやりたいことなどについて、自分で考え、選択し、自分の意志で決めることができる力	自分自身のこと、自分の考えや思いを、相手に理解してもらえるように伝えながら伝えることができる力



この3つの力を意識した活動・取組の積み重ねが、一人一人の社会的・職業的自立に向け、キャリア発達を促し、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていくことにつながり、更には、自分らしい生き方の実現につながっていきます！

この3つの力を、日々の授業や学校行事等のどの場面でもどのように育てていくのか、校内で共有しておきましょう。

「学びの革新」の更なる推進

広島版「学びの革新」は第Ⅲ期を迎えています！

❗ポイント❗

- ◆「主体的な学び」を促す授業改善の推進
- ◆カリキュラム・マネジメントの推進

「本質的な問い」による授業改善

目指す姿

- ・子どもたちの学びが深まる
- ・子どもたちがいきいきと表現する



そのために、先生方が取り組んでいくのは、教科等の本質や探究の過程を意識して、質の高い「問い」を立てることです。それを基盤にして、子どもたちの学びをファシリテートしていきましょう。

子どもたち自身が「なぜ?」「どうして?」など、じっくり考え、そして、考えた結果をお互いに共有できるような、表現の場をつくりましょう。そのため手段の一つがデジタル機器を活用することです。

アテンション ぶい~ず !!

SSRとは、「スペシャルサポートルーム」の略称。教室復帰を前提とせず、個人の興味と関心に基づいた活動を行い、将来の社会的自立に向けて支援を行う教室のことです。

今回は昨年度廿日市市で初めて不登校SSR推進校の指定を受けた四季が丘中学校で、SSR担当教員として勤務された星野陽子先生にお話を伺いました。

Q1 SSR担当教員として大変だったこと、苦勞されたことは何ですか。

生徒をSSRに受け入れるかどうかということについては今でも葛藤があります。四季が丘中学校では緊急避難のためにSSRを使わないように運営していたため、まだ学級で踏ん張れるのか、SSRで受け入れるべきなのか悩むことが今でも多いです。SSRで受け入れる生徒たちの多くは自分に自信が持てず不安を抱えています。目標を決めて承認、肯定を繰り返していくこと、学級とのつながりを途切れさせないことを意識しています。担任の先生方の協力もあり、受け入れられる場所があると自然と教室に戻っていく生徒もいました。

Q2 SSRがあつてよかったと感じたことは何ですか。

不登校の数が劇的に改善はしませんでした。SSRがあるから少しでも学校に来ることができた生徒や、SSRだから成長できた生徒本人が実感し、保護者からも感謝の言葉を頂けたことは印象に残っています。また、自分の指導を振り返るきっかけにもなりました。例えば、これまで学級担任をしていて、「やらない、できない」という一見するとわがままに思える生徒の言葉や行動の背景には、それをするためのスキルや方法知らないなど、深い理由があるのかも知れないと考えることができるようになりました。

Q3 不登校支援で大切なことは何だと考えますか。

特別支援教育の視点でのアセスメントと支援、チームで対応することの2つです。1年間SSR担当として苦勞されながらも不登校の生徒に向き合い続けた星野先生から、大変示唆に富んだお話を伺うことができました。SSRを訪問した際、SSRの生徒の成長を喜ぶ星野先生の姿が大変印象的でした。今後も星野先生の活躍を期待します。



四季が丘中学校
SSR担当教員
星野 陽子先生